

アエルのトビラ

AERU^の

出会う、つながる、学びあう。

TOBIRA

協働

目標設定

自分探し

挑戦

出会い

進路選び

金沢大生の○○をAERUが応援!!

20
22

AERU®TOBIRA

～ 3つのコンセプト～

3

個性や強みを

和える

一人一人がつながり、
相乗効果を生み出す。

2

みんなで学び

合える

互いに気づきや
刺激を受け取り、
共に学ぶ。

1

いろんな人に

会える

多様な人々が集う、
出会える場を
提供する。

アエル

Project:AERU

あなたは大学生活にどんな印象がありますか？

講義、課外活動、アルバイト。新たな出会い。

明るいイメージが思い浮かびます。

一方で、コロナ禍での課外活動、

就職活動や進学、学類・コース選択など。

自分の思い通りにいかず、

悩むこともあるかもしれません。

新しい挑戦がしたい。活躍する人と話したい。

次のステージに進むヒントが欲しい。

そんな金沢大生のお手伝いをするのが

AERUの使命です。

地域をフィールドに、「自ら学び自ら育む」機会を。

出会う、つながる、学び合う。

最後は、きつと笑顔になるはず。

参加してみる？

Contents

03 事業概要

06 事業1

雑談のチカラ×Project:AERU

12 事業2

南砺市学生サポーター

みんなで農作業の日 in 五箇山

18 事業3

NHK金沢連携事業

21 事業4

bibibi連携事業

22 事業5

地域交流牧場全国連絡会連携事業

25 事業6

能登の生業体験プログラム

26 南砺市長×金沢大学教員 対談

28 AERUデータ集

参加・参画 メリット

金沢大生

- 学生同士、社会との接点の増加
- 体験や実践による成長
- 学類選択、キャリア選択の契機
- 就職活動の自己PR

企業

- 商品開発等のアイデア創出
- 商品・サービスへのフィードバック
- CSR活動の拡充
- 大学生との接点の増加

自治体

- 包括連携協定に基づく取組強化
- 若者参入による地域活性化
- 施策立案等のアイデア創出
- 地域の魅力発信・課題解決



地域社会の活性化を担う「金沢大学ブランド」人材へ

個性や強みを

3

和える

目標達成型 プログラム

情報発信や新商品開発など、企業・自治体からの要望に応じたミッションを学生に与え、課題解決に取り組むプログラムです。学生のより実践的な活躍の機会を創出します。

みんなで学び

2

合える

地域体験型 プログラム

地域の文化体験、農林水産業などの職業体験を通じて、地域に根づく働き方・生き方、モノの価値の本質を学びます。

いろんな人に

1

会える

雑談のチカラ

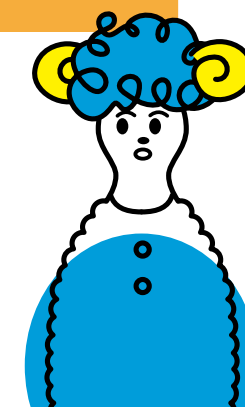
学生のキャリア形成のきっかけとして、地域の有識者やトップランナーと気軽に語り合う機会を提供します。

AERUを通じて、 金沢大生の 成長を促進

大学での学びを深める3つのアプローチ

Project: AERUは、金沢大生を対象にした地域参加型の課外活動プログラム(地域思考型教育)の総称です。各種授業科目や学類のカリキュラムと連関して、本学における学びをより深化させ、「金沢大学ブランド」人材への成長を促します。

※課外活動のため、参加による単位取得はできません(2023年3月現在)



社会課題
解決



異分野融合

アントレプレナー
シップ醸成

地域の
魅力・課題
探求



文化・風土への
理解向上

スキルアップ

多世代・異分野
交流



ネットワーク
構築

キャリア形成

次の未来に向けて雑談！ キャンパスで小型EV試乗

学生14名
ゲスト6名

学生が電気自動車（EV）に触れ、考える機会として、株式会社TOPのモーターを搭載した小型EVを試乗し、議論するプログラムを実施しました。学生は、キャンパス構内道路で小型EVの乗り心地を体感した後、同社の方々と意見交換。各自感想を共有しながら、過疎地域での活用や、欧州の活用事例の日本への転用など、地域や世界に目を向け議論が深まりました。

また、2023年1月から同社との連携事業がスタート。「北陸新幹線越前たけふ駅周辺での小型EV活用」をテーマに、学生5名が活用プランを検討しています。

雑談のチカラ「小型EVがあるサステナブルな社会」
ゲスト：山本 恵一氏（株式会社TOP代表取締役会長（兼）社長）
ほか同社社員5名
協力：株式会社TOP
会場：角間キャンパス南地区



6/7 Tue.

7/11 Mon.



いまの偶然を、未来の必然に。

雑談のチカラ × Project: AERU

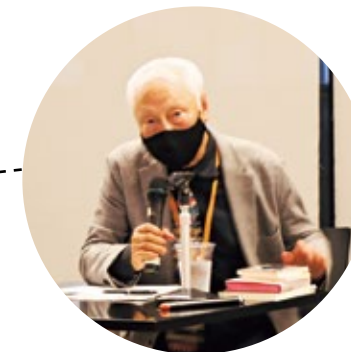
ZATSUDAN NO CHIKARA PROJECT by KANAZAWA UNIVERSITY

「社会とつながる／自分を知る」きっかけは、ちょっとした「雑談」から。
学生、教員、社長、職人、業界人。いろんな人が集まります。
ドリンク片手に、ゆったり気軽に話しませんか？

雑談のチカラは、金沢大学の教職員・学生と地域・社会との共創の契機として、自由な語り合い（雑談）の場を創出する全学的交流事業です。職種・業種や立場などに捉われない「雑談」により、学生のキャリア形成、教職員および協力団体・個人のアイデア創出、ネットワーク構築につなげます。

Project: AERUでは、篠田隆行准教授が進行役となり、学生が地域・社会との接点を持つきっかけとして、1年を通してさまざまな「雑談のチカラ」を実施しました。

2022
5/6 Fri.



「働いてみたい職場」とは？ 地元企業経営者と対話

学生12名
ゲスト4名

中村匠吾社長と20〜40代の若手社員がテーブルを回りながら、学生が投げかけたテーマについて雑談。大学生活や就職活動の話題から、「仕事のやりがいとは何か」「年功序列は今後も必要か」など今後のキャリアに関する質問まで幅広く議論し、学生たちは今後のキャリアや働き方のイメージを膨らませました。中村社長は「回り道は必ず将来の糧になる。大学時代は興味・関心あることに全力で取り組んでほしい」と学生に伝えました。

雑談のチカラ「私たちが考える“働いてみたい職場”」
ゲスト：中村 匠吾氏（中村留精密工業株式会社代表取締役社長）ほか同社社員3名
協力：中村留精密工業株式会社
会場：YABU&CAFÉ丹（角間キャンパス）



学生と地域有識者が「雑談の大切さ」について語り合う

学生17名
ゲスト1名

初回のプログラムには、北陸経済界の巨匠・澁谷進氏をお招きしました。澁谷氏は、経済学者のシンポジウムが提唱した概念を取り上げ、「イノベーションとは『革新的な技術』のみならず、多様なつながりから生まれる『新結合』によって実現するもの。これからの時代を生きる皆さんにとって、さまざまな人との対話こそが大切だ」と学生に説きました。また、「人生を楽しむには友人や家族の存在が不可欠。大学時代は学外にも出て、たくさん仲間を作ってほしい」と助言しました。

雑談のチカラ「地域から見た金沢大学」
ゲスト：澁谷 進氏（澁谷工業株式会社前副会長）
協力：合同会社北陸つどいフォーラム
会場：YABU&CAFÉ丹（角間キャンパス）



学生9名
ゲスト2名

IT活用で地域活性化！ハイブリッドで雑談



対面とオンラインのハイブリッド形式で、「北陸の人々の暮らしを豊かにする生活者視点の決済サービス」をテーマに、マーケティング手法のグループワークに取り組みました。サービスの対象となる「ペルソナ」を設定した上で、周囲の金銭の流れや生活での不安・不満などを想定しながら、その解決に必要な決済サービスについてアイデアを出し合いました。続く雑談パートでは、学生はゲストの方々に多くの質問を投げかけ、就職活動やキャリアなど、将来のイメージを膨らませました。

雑談のチカラ「DXと地方創生！デジタルで紡ぐ未来」
ゲスト：林 裕也氏、中澤 亜希子氏（株式会社NTTデータ 第三金融事業本部決済ITサービス事業部）
協力：株式会社NTTデータ
会場：YABU&CAFÉ丹（角間キャンパス）

「無印良品の地域事業」に アイデア提案

新店舗「無印良品羽咋宝達志水」の開店を踏まえ、「あなたが店長ならどんなサービスを届ける？」をテーマにアイデアを出し合いました。
「1回分の化粧品サンプルが充実すると購入したい」「キャンプやピクニックなど、買い物以外の目的が実現できる店舗だと立ち寄りたくなる」「千里浜海岸があるので、ドライブ旅行者向けのサービスが充実すると地域も活性化する」といったアイデアが提案され、場は大いに盛り上がりました。



学生15名
ゲスト3名

雑談のチカラ「MUJIの最前線-地域で芽吹くアイデアのタネ-」
ゲスト：飯島 輝氏（株式会社良品計画営業本部北陸事業部長）ほか同社社員2名
協力：株式会社良品計画営業本部北陸事業部
会場：YABU&CAFÉ丹（角間キャンパス）

舞台はテレビ局！ 「情報発信の極意」とは！？



学生21名

AERUとして初の学外開催となったNHK金沢放送局での「雑談のチカラ」。学生たちは収録スタジオや編集室などを見学し、番組制作の裏側を体験しました。その後、同局のディレクター、アナウンサー、エンジニアの方々と「あなたがNHK会長ならどんな事業を展開する？」「自分らしい／多様な価値観」を伝えるには？」をテーマに意見交換。「視聴者の気分に応じてコンテンツを配信」「自分の本音を安心して伝えられる対面イベントを開催する」など、学生のアイデアが発表されました。

雑談のチカラ「伝える！ 伝わる？ “情報発信の極意”」
協力・会場：NHK金沢放送局

2023
1/17 Tue.-18 Wed.

12/28 Wed.

12/7 Wed.

伝統工芸の発信に向け意見交換

南砺市学生サポーター事業でも「雑談のチカラ」の形式で、学生が伝統工芸の職人の方々と意見交換しました。学生サポーター一行は南砺市の企業2社を訪れ、職人の方々から伝統工芸の製造工程を学びながら、「南砺の逸品」のギフトボックスセットの販売拡大策を検討しました。

詳しくは
P.15を参照！

学生12名



南砺市学生サポーター応援活動「伝統工芸体感&意見交換」
協力：南砺市役所
会場：株式会社松井機業、一般財団法人五箇山和紙の里

雑談を通じて酪農の課題解決へ



学生計13名
ゲスト26名

地域交流牧場全国連絡会（北陸ブロック）との連携事業に「雑談のチカラ」の手法を取り入れ、意見交換プログラムとして実施しました。
「地域における牧場の役割への理解」「牛乳の価値向上」のための有効な情報発信をテーマに、酪農の課題解決に向けたアイデアを検討しました。

詳しくは
P.22-23を参照！

地域交流牧場全国連絡会連携事業 第2弾「雑談のチカラ」
協力：地域交流牧場全国連絡会（北陸ブロック）
会場：かくまちプラザ（角間キャンパス）

10/27 Thu.

金沢大学OBと語り合う「充実した大学生活」

本学OBの石田健悟氏が学生の質問に答える「対話型セミナー」の形式を探りました。「大学時代にやるべきこと」という問いに対し、石田氏は当時の生活やラグビー部での思い出を振り返りながら、「一番は英語だが、いろいろな人と関わることも大事。新天地で刺激を得て、仲間を増やすといい」と答えました。また石田氏は「人生を楽しむ秘訣は人を楽しませること」と説き、「そのために自分も楽しむ。その好循環が人生を豊かにする」と話しました。

雑談のチカラ「金大OBと語る！キャンパスライフ充実の秘訣」
ゲスト：石田 健悟氏（UBS銀行ウェルス・マネジメント本部長）
協力：合同会社北陸ついでフォーラム
会場：YABU&CAFÉ丹（角間キャンパス）

7/19 Tue.

2022
7/14 Thu.

学生19名
ゲスト1名





熱いメッセージを送る石田健悟氏
(UBS 銀行／本学 OB)



学生の質問に応じる林裕也氏
(株式会社 NTT データ)

学生

教員

雑談のチカラ × Project : AERU

AERU'S TALK!

普段なかなか聞くことがない大学生の「本音」。
大学生活、就職活動、コロナ禍、人との出会い。
ざっくばらんな「雑談」で、篠田先生が聞き出します！

金沢大生のキャンパスライフ
「雑談のチカラ」に参加して

篠田 古川さんは1年生。大学生活はどう？

古川 大学は自分のやりたいことを選んで、取り組める環境だと思います。でも、意識して行動しないと、ダラダラしちゃいます（笑）

篠田 普段から意識していることはある？

古川 興味を持ったことには、できるだけ取り組んでいます。初めて雑談のチカラに参加したときも、「社長さんと話せる」と聞いて驚きました。

篠田 中村留精密工業株式会社さんのプログラムですね。

古川 社長さんも社員さんとても気さくな方で話しやすかったです。1年生で社長さんと話す機会は少ないので、とても貴重な経験でした。

篠田 それは良かった。藤井さんは？ 株式会社良品計画さんのプログラムに参加しましたか。

藤井 当日はグループワークでしたよね。アイデアを出し合って、面白かったです。私は法学類のサークルで、中高生に法学の基礎を教えています。企画のときに感じるのは、同じ学類同士でも、専門が違えば考え方も違うこと。雑談のチカラのときも同じような印象でした。

篠田 考えが違っても、互いの意見が刺激になってアイデアが出るんですね。九曜さんは？

九曜 石田健悟さんとの雑談で、印象的だった言葉があって。メモしてあるんです（笑）「全力疾走」「努力と愛嬌」「反省するけど後悔しない」。

篠田 彼の言葉は響きましたよね。その回は、大学OBとの対話を通して、皆さんに自分の「将来の姿」

を想像してほしかったんです。
コロナ禍の大学の役割
対面だからこそ得られるもの

篠田 九曜さんは今まさに就職活動中ですが、先輩として2人にアドバイスは？

九曜 2人とも積極的だから、今頑張っていることを続けたらきっと大丈夫。就活でよく言われる「ガクチカ（学生時代に力を入れてきたこと）」は「どんな課題を持って、どんな想いで、どう行動したか」がポイントらしいよ。

藤井 就活中に困ったことはありません？

九曜 中学・高校時代の質問をされて、驚いたな。自己分析も、場慣れも大事だね。

篠田 普段からいろんな大人と話す機会があると、就活でも気後れしない。そういう意味でも、雑談のチカラを有効活用したらいいと思うよ。今年度参加して、良かった企画、今後やりたい企画はある？

古川 他学類の人も、違う学年の人も、全然知らない人と話せるのが楽しいです。九曜さんとも雑談のチカラで仲良くなりました。同じグループで話す時間が多いので、別グループの人ともしっかり話す機会があると嬉しいかな。

藤井 真つ暗な状態で会話すると、良いアイデアが生まれると聞いたことがあります。初めは真つ暗で、自己紹介が終わったら部屋を明るくして、初めて相手の顔が分かる、とか。

篠田 その企画、面白いね。来年度は、一度は真つ暗でやりましょうか（笑）マスク生活で、相手の顔が分からない。コロナ禍も同じですね。大学生活に影響はありますか？

九曜 同じメンバーといえることが多いです。コロナがなかったら、もっといろんな人と仲良くなれた気がします。人と直接話せることに、幸せを感じますね。

藤井 昔持っていた大学のイメージは、人が集まって何かをする「居場所」。今は大学に滞在する時間が少なく感じます。授業はオンラインでも良いけど、何かを経験・体験するには「対面ありき」だと思う。

篠田 そうですね。大学は学生の居場所であり、出会うの場所でもある。来年度、皆さんはどんな大人と出会い、話したいですか？

藤井 3年生になるので、就活を意識するなら、企業の人からもっと話が聞きたいです。

九曜 そう思うと、株式会社NTTデータさんのプログラムは良かったな。大手企業で活躍している方々と直接話せて良い経験でした。グループワークも、いろんな意見が出て楽しかったです。

古川 私は職人さんのお話が聞いてみたいです。普段どんなふうに取り組んでいるか気になります。

篠田 ちょうど良かった。来年度は、企業の方と気軽に話せる機会や、学生の皆さんが普段接することがないような料理人さんとの雑談なども考えています。ぜひ楽しみにしてください。

応援者MESSAGE



日本経済新聞社
金沢支局長
いしくろ かずひろ
石黒 和宏さん

大人たちと出会い、成長する金沢大生の姿を見て、ふと自身の大学時代を思い出しました。学部、学年、出身地も違う仲間と、時間も気にせず語り合う。そんな学生の特権とも言える「雑談」の機会が、コロナ禍では極端に減りました。イノベーションは、新たな出会いから生まれるものです。雑談のチカラを契機に、難しい時代の人づくりに尽力する金沢大学。教職協働の一つの在り方を垣間見ながら、今後も一層多くの学生が成長し、巣立っていくことを願っています。



北陸朝日放送株式会社
ディレクター（元副理事）
きたむら まみ
北村 真美さん

大学が学生に何を提供できるかが、以前よりも問われる時代になりました。人生の中でも彩り鮮やかな時期である大学生活に影響を与えるのは、師か、友か、それとも4年間を過ごした場所か。金沢大学が角間キャンパスに移転してから、街のささやきは聞こえにくくなりましたが、金沢の息吹を届けようと企画されたのが「雑談のチカラ」なのでしょう。この地域のエッセンスを継ぐ人々が登場するからです。そこには私の時代にはない「出会い」があると期待しています。



くよう けいこ
九曜 慶子さん

人間社会学域 経済学類 3年
富山県射水市出身

ふじい りょうすけ
藤井 亮介さん

人間社会学域 法学類 2年
富山県富山市出身

ふるかわ
古川 こはるさん

融合学域 先端学類 1年
大阪府茨木市出身

しのだ たかゆき
篠田 隆行先生

先端科学・社会共創推進機構
准教授

南砺市学生サポーター 任命式

学生29名



山岸雅子金沢大学理事が見守る中、田中幹夫南砺市長が「南砺市を舞台に、市民と一緒にさまざまなことに挑戦してほしい」と述べ、サポーターの代表学生に任命状を授与しました。また、式典前には田中市長が特別講演し、同市の取り組みや将来ビジョンなどを紹介した後、学生の活動による地域活性化や若者目線での魅力発信など、今後応援活動に取り組む学生サポーターの活躍に期待を寄せました。

会場：総合教育講義棟（角間キャンパス）
 参席者：田中 幹夫 南砺市長、山岸 雅子 金沢大学理事

南砺市学生サポーター 応援活動ガイダンス

学生27名

南砺市総合政策部政策推進課の道宗学紀氏が、同市の特徴や課題、今回のサポーター事業の実施経緯について説明するとともに、学生サポーターが取り組む3つの応援活動の枠組み「地域資源『五箇山かぶら』の活用」「住民自治のまちづくり支援」「産業の魅力発信・商品開発」を紹介しました。

会場：かくま Plaza（角間キャンパス）
 ゲスト：道宗 学紀氏
 （南砺市総合政策部政策推進課）



南砺市学生サポーター

2014年12月に締結した金沢大学と富山県南砺市との包括連携協定に基づき、Project: AERUと同市の関係人口施策「南砺市応援市民」制度との官学連携事業の一環として今年度新たにスタート。金沢大生42名が、地域の魅力発信や課題解決に取り組んでいます。

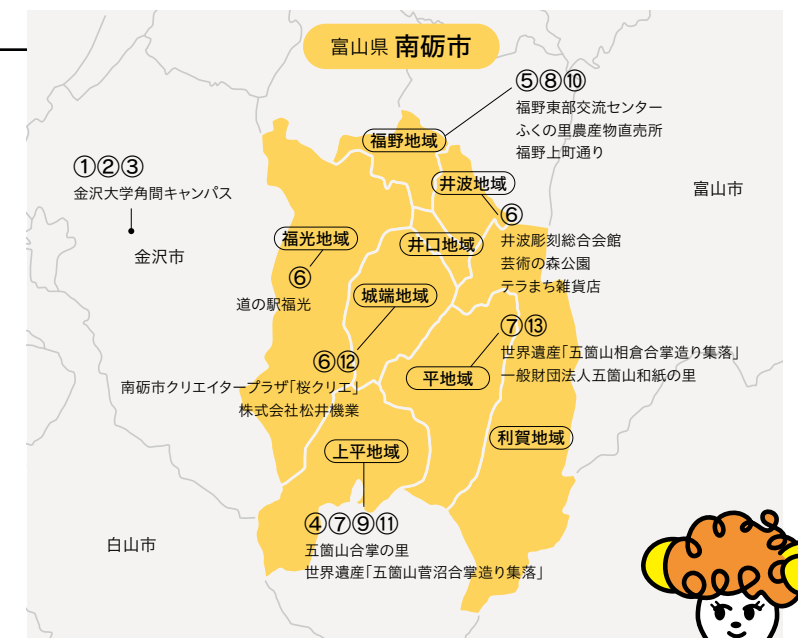


南砺市って？

南砺市は金沢市のすぐ隣で、富山県南西端に位置します。美しい散居村が広がる平野部から、世界遺産「五箇山合掌造り集落」を有する山間部まで、豊かな自然の中に懐かし美しい日本の原風景が広がるまちです。また、豊かな風土に育まれた多様な伝統文化、食文化、芸術文化が展開されており、国内外にファンが多い地域です。

南砺市学生サポーター応援活動一覧

- ① 6/17 南砺市学生サポーター任命式
- ② 7/5 応援活動ガイダンス(1)
- ③ 7/7 応援活動ガイダンス(2)
- ④ 8/29 焼き畑体験&赤カブ種まき
- ⑤ 9/1 福野東部フィールドワーク
- ⑥ 9/12 商品開発見学ツアー
- ⑦ 9/29 農作業&地域文化体験
- ⑧ 10/2 地域交流&イモ掘り体験
- ⑨ 10/8 五箇山合掌の里世界遺産フォーラム
- ⑩ 10/30 わいわい広場 in 東部交流の日
- ⑪ 11/25 赤カブ収穫
- ⑫ 1/17 伝統工芸体感&意見交換(1)
- ⑬ 1/18 伝統工芸体感&意見交換(2)



住民自治のまちづくり支援

南砺市における「住民による小規模多機能自治」をサポート

福野東部フィールドワーク／地域交流&イモ掘り体験／わいわい広場 in 東部交流の日



学生5名



学生2名



学生10名

協力：福野東部地区振興会 会場：福野東部交流センター、ふくの里農産物直売所、福野上町通り

子どもの居場所づくりに積極的に取り組む福野東部地区で、学生たちは市民活動を支援しました。9月の施設見学と意見交換に始まり、10月には毎年恒例の地域行事「さつまいも掘り」に参加。行事運営をサポートしながら、市民とイモ掘りを楽しみました。また10月末には地域の秋祭り「わいわい広場」に参加し、学生たちは子ども向けブースの運営を担当。出店や昔の遊びの体験を通じて子どもや保護者と楽しく交流し、会場を盛り上げました。

協力者VOICE!



福野東部地区振興会
東部おもろいこと部会
部会長
はしづめ ひろき
橋爪 央樹さん

コロナが落ち着いて地域活動が再スタートを切る中、金沢大学の学生さんがやって来たことで、地域に活気が出たように感じます。行事運営に真面目に取り組みながら、地域の子どもたちと近い距離感で交流してくれました。今回は体験がメインでしたが、来年度は行事の企画から一緒に考えるなど、地域活動により深く関わってほしいです。来年度の学生さんにも期待しています。

産業の魅力発信・商品開発

伝統工芸の商品開発・広報活動に向けてアイデア提案

商品開発見学ツアー／伝統工芸体感&意見交換

地域の伝統工芸を知るため、9月に市内の見学ツアーを実施。木彫刻で有名な井波地域で、展示施設や雑貨店を訪れ、取り組みの説明を受けながら意見交換しました。翌年1月には、同市のブランド商品を集めた「南砺の逸品」のギフトボックスセットの販売促進に向け、出品企業の職人と学生が意見交換。工房見学で伝統工芸の魅力に触れた後、学生からは「工房の雰囲気や職人の想いを直接伝える体験ツアー」「職人の顔や製造過程が伝わる広報物」「伝統工芸が気軽に楽しめる手作りキット」などのアイデアが提案されました。今回のアイデアは、「南砺の逸品」の広報や販売拡大策の検討に役立てられています。



学生4名



学生12名

会場：井波彫刻総合会館、芸術の森公園、テラまち雑貨店、道の駅福光、南砺市クリエイタープラザ「桜クリエ」、株式会社松井機業、一般財団法人五箇山和紙の里

地域資源「五箇山かぶら」の活用

地域が継承する歴史・文化に着目し、その魅力を発信

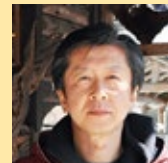
焼き畑体験&赤カブ種まき／農作業&地域文化体験／赤カブ収穫

五箇山の伝統野菜について理解を深めるため、赤カブの在来品種「五箇山かぶら」の栽培に取り組みました。標高約750メートルの畑に赴き、8月には伝統農法の焼き畑と種まきを、9月には新芽の間引き作業を体験。地元の農業者から焼き畑や高地栽培のメリットについて説明を受けながら、農作業に汗を流しました。11月末には、成長した赤カブを収穫し、寒暖差で増した甘味と美味しさに舌鼓を打ちました。また、農作業の合間には、五箇山相倉・菅沼の合掌造り集落を訪れ、合掌造り家屋の屋根のふき替え作業の現場を見学するなど、職人の伝統の技と地域特有の文化を体感しました。



学生2名

協力者VOICE!



特定非営利活動法人
雪峯倶楽部代表
まつふる まこと
松古 誠さん

この事業に参加した目的は、学生さんに五箇山に来て、五箇山のことを知ってほしいからです。年々人口が減る中で、地域の関係人口を増やしていきたい。そうすることで、地域が明るく元気になることが、この事業の良い点だと感じます。今後は学生さんと我々地域住民が深く温かくつながれるような活動を行いたいです。



学生8名



学生5名

協力：特定非営利活動法人雪峯倶楽部
会場：五箇山合掌の里、菅沼合掌造り集落、相倉合掌造り集落

五箇山合掌の里世界遺産フォーラム

学生9名



10月8日、世界遺産条約50周年と日本条約締結30周年を記念し、世界遺産(文化・自然)について考える本フォーラムが開催され、市民と共に学生サポーターも参加しました。世界遺産の専門家による講演のほか、学生と専門家、富山県立南砺平高等学校の生徒が集い、「五箇山地域の世界遺産の未来」をテーマに意見交換。学生からは「地域内外が一体になって世界遺産を発信・継承する大切さを知った。私も世界遺産の発信をサポートしたい」など、意欲的な意見が多く挙がりました。

南砺市学生サポーター

AERU'S VOICE!

地域で感じた「地元愛」
思いを伝える大切さ

すずき はるか
鈴木 晴日さん
総合教育部(文系) 1年
岐阜県多治見市出身

五箇山、福野東部、井波、福光。応援活動で南砺市のさまざまな場所を巡り、その歴史の深さと伝統文化の豊かさに触れました。中学・高校と美術部だった私は、井波の木彫刻が印象的で、4年に一度国際的な祭典が開催されていることに驚きました。また応援活動では、地域の子どもたちと直接話す機会に恵まれました。郷土料理を覚えてくれた小学生、伝統芸能に熱心に取り組む高校生。その一人一人から地元への愛情が感じられ、その真つすぐな言葉とひたむきな姿に、自分の気持ちを素直に伝える大切さを実感しました。2年次からは法学類に所属したいです。地域と教育の関係性にも注目しつつ、少年法を深く学びたいと思います。

こだわりと温かい人柄
交流して感じた「心遣い」

なかしま ゆういちろう
中島 優一朗さん
融合学域 先導学類 1年
石川県金沢市出身

幼少期に住んでいた石川県能登地域。南砺市に行ってみると、人と人の距離が近く、出会った人々の温かさもあって、能登との多くの共通点を感じました。応援活動で特に印象的だったのが、福野東部地区で出会った、地元和菓子屋の店長さんです。「メインメニューは店の外で売らない」こだわり、学生の私にずっと笑顔で話してくれる人柄に、目の前のお客さんを大切にしている心遣いを感じました。ホテルでのアルバイトで、接客の難しさを常日頃感じているからこそ、心動かされたんだと思います。活動での心残りは、地域の子どもたちともっと深く交流したかったこと。来年度は、イベントの企画段階から携わりたいです。

素材を活かした
伝統野菜の魅力発信

やぎした ななみ
柳下 七美さん
理工学域 地球社会基盤学類 3年
神奈川県川崎市出身

8月から11月にかけて、伝統野菜「五箇山かぶら」の農作業を体験しました。初めは、携帯電話がつかない高地での農作業に戸惑いましたが、山間部の寒暖差でカブの甘味が増すこと、文化継承に向けて強い種を育てるため、厳しい環境で栽培していることを教わりました。採れたてのカブは生で食べても柔らかく、甘くてとても美味しかったです。家でいろんな調理法を試しましたが、オススメは素材の良さが楽しめるサラダ。現地で採れたてをサラダバックなどで売り出すと、彩りの良さも美味しさも届けられます。手間のかかる栽培工程、作り手のこだわりや苦労も含めて伝えられれば、五箇山かぶらの魅力はもっと輝くと思います。



五箇山セミナーハウス 助市

すけち

金沢大学は2014年12月に南砺市と包括連携協定を締結し、地域の活性化および課題解決、さらに本学の教育・研究・地域連携の一層の発展に向けた取り組みを進めています。2016年4月には同市の協力を得て、世界遺産である五箇山相倉合掌造り集落内の家屋を改修し、金沢大学五箇山セミナーハウス「助市」を開設しました。合掌造り茅ぶきの建物内には、多目的スペースや和室のほか、シャワールームも完備。本学の活動拠点の一つとして、教育・研究活動、ボランティアおよびサークル活動、市民向け講座などに利用され、学生の成長の場、さらには地域活性化につながる「場」としての役割を果たしています。

五箇山の棚田で昔ながらの
農作業を体験！
～みんなで農作業の日 in 五箇山～

2018年度から、金沢大学は南砺市平地区の棚田オーナー事業に「金沢大学セミナーハウス 助市」名義でオーナー登録しています。2022年度は、5月に田植えを、9月に稲刈りとハサ掛けを体験。五箇山相倉合掌造り集落内の棚田で、昔ながらの農作業に取り組み、地域住民やボランティアスタッフ、他の棚田オーナーと交流を深めました。また、田植えの後には五箇山和紙の紙すきも体験し、職人の指導の下、各々が決めたデザインで自分好みの和紙を仕上げました。11月の収穫祭では、五箇山で採れた食材を使い、赤カブ料理や五平餅づくり、そば打ちを体験した後、地域住民と完成した料理を囲み、一緒に収穫の恵みを味わいました。その合間、富山県立南砺平高等学校の郷土芸能部が郷土芸能「越中五箇山民謡」を披露し、学生たちは生の演舞の素晴らしさに心打たれていました。





2021年度に引き続き、今年度もNHK金沢との連携プロジェクトを実施しました。今回は「石川県の最北端の隠れた魅力」をテーマに珠洲市の魅力を発信した金沢大生。今年度はメンバーを総入れ替えし、学域・学類、出身地、興味・関心も違う学生たちが、加賀野菜「ヘタ紫なす」の魅力を発信しました。

Project

3

Report

学生5名



NHK 金沢連携事業

金沢大生 × NHK金沢
加賀野菜 魅力発信プロジェクト

イベント・ラジオ出演 ←

(10月)

取材・撮影、動画編集 ←

(9月)

企画ワークショップ ←

(8月)

体験・ヒアリング

(8月)



さらなる魅力発信のため、金沢市内で開催された「第43回石川の農林漁業まつり」のステージに、今回の学生たちがゲスト登壇。多くの来場者に向けて、ヘタ紫なすの美味しさや動画の見どころを語りました。

また、その2日前には、NHK金沢のラジオ番組「じわもんラジオ」に学生が生出演し、動画制作の話題からステージ登壇への意気込み、多田さんとのトークセッションに至るまで、スタジオは大いに盛り上がりました。

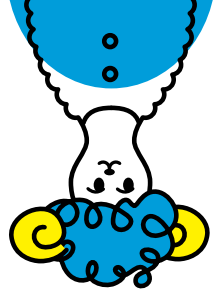
もう一度、多田さんと川村さんの話が聞きたい。その一心で、学生たちはお二人のもとを再訪しました。バトンの演出にも協力してもらい、それぞれの想いを映像に収めました。その後、人々がヘタ紫なすを食べる姿など、撮りためた映像を学生自ら編集し、プロモーション動画が完成しました。

9月から10月にかけて、動画が学生のドキュメンタリー映像と共にテレビ放映され、石川県内ひいては全国にもヘタ紫なすの魅力が伝わりました。

ヘタ紫なすの魅力発信に向けて、動画の企画を話し合いました。体験での気づきを共有する中で、多田さんの想いを川村さんが受け止め、「料理」としてお客さんに届ける姿を思い出し、「つながる」というキーワードが浮かび上がります。

議論の結果、ナスの美味しさとお二人の想いを多くの人々に届けたいという意図から、ナスをバトンに見立て、その魅力と生産者・料理人の想いをつなぐ動画を制作することに決まりました。

まずは、ヘタ紫なすを知るため、生産者であるきよし農園の多田礼奈さんと、普段から加賀野菜を取り扱う老舗料亭・つば甚料理長の川村浩司さんのもとを訪問。学生たちは、収穫作業や調理を体験した後、お二人から話を聞きました。栽培の難しさなどから生産農家が2軒に減った現状、祖父から受け継いだ伝統野菜を未来につなぐ多田さんの想い、その想いや地域文化を理解し「料理」を届ける川村さんの心遣いなど、ヘタ紫なすの物語をひも解きました。



Project

4

Report

学生8名

bibibi 連携事業

金沢市のものづくり会社・bibibiと共同で「端材を活用した商品開発」に取り組みました。

商品の企画や製造、商談現場の体験により、
学生のより実践的なアントレプレナーシップ体得につなげます。

目指すは「国際見本市」出品！商品開発ワークショップ

bibibiの担当スタッフが、本ワークショップの目標として、9月に開催される国際見本市「東京インターナショナル・ギフト・ショー秋2022」での出品を掲げ、商品アイデアを検討していくことを説明しました。

学生たちは、同社が試作したキャンパ道具「パトニングロッド」を題材に、実際に使い心地などを試しながら、そのアピールポイントを議論し、商品パッケージに落とし込みました。



「東京インターナショナル・ギフト・ショー」に参加



学生がリアルな商談現場を体験

東京ビッグサイトで開催された本イベントに、学生も出展者ゲストとして参加しました。当日は、公益財団法人石川県産業創出支援機構の出展ブースの一画にある bibibi コーナーを訪問。今回のプログラムで取り扱った商品が実際に展示され、同社スタッフがディーラーと商談する様子を見学しました。また、学生は会場内のさまざまな出展ブースを回り、商品の開発経緯やアピールポイントを聞き取り調査し、各社の商品開発のストーリーを実感しました。

Project

3

Report

学生

NHK 金沢連携事業

AERU'S VOICE!



こはぐら しょうご
古波倉 正梧さん
人間社会学域 経済学類 2年
千葉県佐倉市出身

かわばた なつみ
川端 夏希さん
融合学域 先端学類 2年
石川県輪島市出身

ー プログラムに参加した理由は？

古波倉 石川県のことがもっと知りたい、今後の選択肢を広げるため、今しかできないことに挑戦したいと思って参加しました。

川端 夏休みに普段と違う体験がしたかったからです。農家や料理人の方々の興味と、ナスが好きだったのもあります。

ー 加賀野菜は知っていました？

古波倉 県外出身なので、初めは加賀野菜と石川県産野菜の違いが分かりませんでした。金時草や加賀レンコンはスーパーで見かけましたが、ヘタ紫なすは知らなかったです。

ー ヘタ紫なすの印象は？

川端 小さくて丸い見た目が可愛い。多田礼奈さ

んからレンジで加熱するだけの簡単調理法を教わり、実際に食べてみたら、それだけで柔らかく、美味しいことに驚きました。

ー きよし農園を訪れた感想は？

古波倉 多田さんは農業に真剣に取り組む、作物を我が子のように育てていました。また伝統野菜だからこそ、種を保存・継承する必要がある、「自分が守っていく」という強い覚悟を感じました。



ー つば基での体験はどうでした？

川端 川村浩司さんの言葉の一つ一つに、食に真摯に向き合う気持ち、生産者やお客様への心遣いを感じました。「料理はお客さんに美味しさと作り手の想いを届ける」という言葉が印象的でした。



ー 動画制作で意識したポイントは？

古波倉 多田さんや川村さんの想いを伝えたい。その上で、自分たちなりのアイデアが動画に反映できたらと思いました。私自身、なかなか答えが出ませんでした。が、「つながる」というキーワード

ドから「ナスのボタン」のアイデアにたどり着いたのも、チームで議論したからこそだと思っています。川端 現地で心に残ったお二人の言葉を、撮影時にもう一度インタビューして動画に収めました。また、ナスの簡単調理法や食べるシーンなど、見た人が思わず真似したくなるような動画になるよう意識して、編集作業に臨みました。

ー テレビやイベント出演の反響は？

古波倉 家族がテレビ放送を見てくれて、「ナスのボタン」のアイデアを褒めてくれました。そして何より、ヘタ紫なすを知ってもらえたことが嬉しかったです。

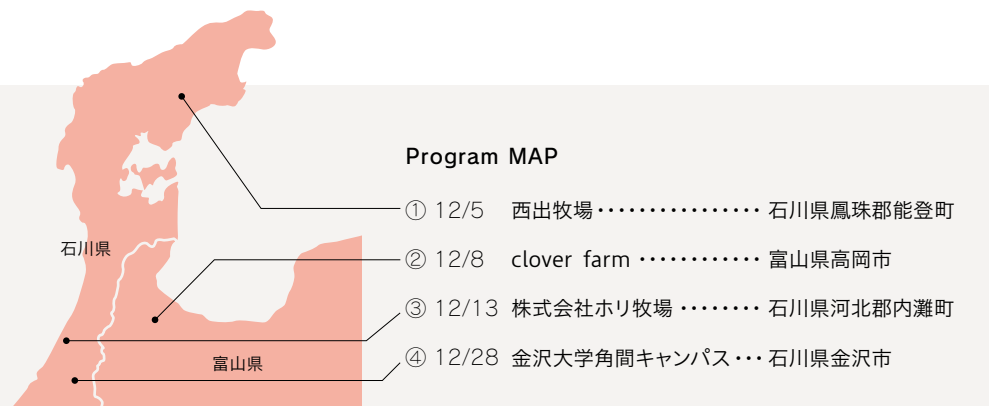
川端 ステージでは、お客さんが多田さんや川村さんの想いに注目してくれるなど、直に反応が見られたことが刺激になりました。

ー プログラムを通して得たものは？

古波倉 生産物には、作り手の心がこもっていることに気づきました。自分も将来、強い原動力を持つて仕事に取り組みたいです。

川端 魅力を見つけて発信する楽しさ、人前で話す楽しさを覚え、いろいろな形で情報発信に取り組みたいです。





地域交流牧場全国連絡会連携事業

酪農体験や意見交換の連動プログラムを通じた牧場関係者との交流・共創により、
学生が酪農の魅力や課題を理解した上で、「食」を取り巻く社会課題について考えます。

酪農体験(株式会社ホリ牧場) — 大規模牧場の日常を実体験 —

学生4名

牛乳の年間生産量が約2千トンと、多くの乳牛を飼育するホリ牧場。学生たちは、当日朝に生まれた子牛の体重計測や哺育舎への運搬、さらには乳牛の出産に立ち会い、分娩介助も体験するなど、酪農家の日常を体感しました。株式会社ホリ牧場の堀牧人さんは、「牛乳は生産に手間がかかるからこそ、一層の価値向上につなげたい」と語り、学生たちは、株式会社ホリ乳業の商品を口にしながら、作り手の熱意と品質へのこだわりを感じ取りました。



12/13 Tue.

12/28 Wed.



いまの偶然を、未来の必然に。
雑談のチカラ
ZATSUDAN NO CHIKARA PROJECT by KANAZAWA UNIVERSITY

酪農の課題解決へアイデア提案

学生8名
ゲスト26名



当日は酪農体験の参加学生と酪農家に加え、多くの酪農関係者が集いました。篠田隆行准教授のファシリテートのもと、「地域における牧場の役割への理解」「牛乳の価値向上」のための有効な情報発信をテーマに意見交換。情報の発信元と発信先、手段や方法を念頭に、グループで議論を重ねました。発表パートナーでは、「牛乳による健康改善のメリットを病院や高齢者施設で直接発信」「牛乳を飲んでお腹がゆるくなる人に『A2ミルク』を勧める」など、さまざまなアイデアが提案されました。

協力：農林水産省北陸農政局、北陸酪農業協同組合連合会、
石川県酪農業協同組合、奥能登農林総合事務所
会場：かくまちプラザ(角間キャンパス)

酪農体験(西出牧場) — 体験で触れる酪農の魅力 —

学生4名

飼料の価格高騰による牧場経営への影響など、西出牧場3代目の西出様さんから生産現場の苦悩を聞き、学生たちは現在の酪農業界の現状を理解しました。その後、手作業で搾乳や餌やりを体験し、牛乳が「命の恵み」であることを再認識。「体験を通じて多くの人に酪農のことを知ってほしい。牧場の役割、牛乳の価値について考えたい」という西出さんの言葉に、学生たちは意見交換プログラムへの意欲を高めました。



12/5 Mon.

12/8 Thu.

酪農体験(clover farm) — 富山県高岡市で考える「牛の幸せ」 —

学生5名

野菜カット工場の野菜の端材を飼料に再利用したり、地元スイーツ店の商品開発に協力したりと、地域連携に力を入れる clover farm 代表の青沼光さん。学生たちは、「牛の健康を考えてつなぎ飼いはしない」「100年後も日本で酪農が続くように、魅力を伝えていく」という青沼さんの言葉に心打たれました。また、搾乳体験や clover farm の出荷先の牛乳の試飲も行い、学生にとって、人々の食を支える酪農の仕事について考える機会になりました。



能登の生業体験プログラム

学生16名

石川県「能登キャンパス推進事業」の一環として実施した本プログラム。

金沢大学に加え、金沢星稜大学や北陸先端科学技術大学院大学の学生も参加し、

総勢16名が能登地域をフィールドに地域の生業を体験しました。

企業見学で能登の里山里海を活かした生業を体感



9月、学生たちは能登の自然の恵みを活かした事業を行う企業2社を訪問しました。まず、輪島市の谷川醸造株式会社では、同社の醤油蔵・味噌蔵や販売店舗を見学し、明治38年から続く伝統製法へのこだわり、製造から販売までのプロセスを体感。その後、能登島にある株式会社スギヨファームの農場に赴き、地域の耕作放棄地の解消への寄与、6次産業化に挑戦する株式会社スギヨの農業事業に触れました。



「能登の里山里海学会2022」に参加



学生が能登学舎で地域との交流を深める

学生たちは、金沢大学「能登里山里海SDGsマイスタープログラム」の一環として開催された「能登の里山里海学会2022」に参加。里山里海をフィールドにする研究者の講演を聴き、自然と共生する持続的な社会モデルについて学びました。また、能登の野草を使ったハーバリウム作りや丸太の早切りなどの体験ワークショップを通じて、他の参加者と交流を深めながら、地域資源を活用するソーシャルビジネスへの理解を深めました。

協力者

地域交流牧場全国連絡会連携事業

学生

AERU'S VOICE!

ー プログラムに参加した理由は？

東中 家族が果樹園を営んでいて、人々の生活を支える第一次産業に惹かれています。酪農にも触れ、視野を広げたいと思いました。

一木 東中さんに誘われたこと、元々栄養科学に興味があつて、実際の生産現場に行ってみようと思いを決めました。

ー 酪農体験の感想は？

東中 西出様さんのお話から、円安による飼料高騰、牛乳の単価が上がらない現状など、酪農の現場の苦悩を知りました。食を取り巻く社会課題は、私たちの身近にあることを実感しました。

一木 飼料を自社生産する西出さんの経営努力、酪農への情熱や乳牛への愛情を肌で感じました。また、搾乳体験を通じて、牛乳は「命の恵み」だと再認識



ひがしなか なつ
東中 菜都さん
理工学域 生命理工学類 2年
石川県金沢市出身

いちきり ほこ
一木 梨浦子さん
理工学域 生命理工学類 2年
和歌山県和歌山市出身

して、感謝の気持ちが芽生えました。
ー 情報発信のアイデア、新たな気づきは？

東中 私たちは保存が効く「ロングライフ牛乳」の普及を提案しましたが、伝える情報をターゲットごとに変える有効性を示した、他グループの発表が印象的でした。議論中も、私にとって身近な植物性ミルクを知らない人が多いことに驚き、情報の受け取り方に個人差があると分かりました。

一木 意見交換後、コーヒーショップでのアルバイト中に気づいたのが、コーヒード豆の種類が多いのに、牛乳は1種類しか使われていないこと。牛乳が選べるオプションなどあれば、お客さんが牛乳や酪農に興味を持つきっかけになる。身近にアイデアのヒントが隠れていると感じました。

ー 今回の経験を今後どう活かしたい？

東中 私の夢は第一次産業を支え、発展に貢献することです。現場を第一に、生産者の想いを人々に伝えるお手伝いができたらと、より一層モチベーションが高まりました。

一木 研究に興味があり、大学院博士課程への進学を考えています。物事のバックグラウンドをしっかりと理解し、西出さんのように熱意を持って、自分の専門を深めていきたいです。



お世話になりました

clover farm代表、
地域交流牧場全国連絡会(北陸ブロック)代表
あおぬま あきら
青沼 光さん



今回の取り組みは、金沢大学の「雑談のチカラ」を知り、私たちが声を掛けたのがきっかけでした。元々、酪農の課題解決につなげたい一心でしたが、実際に学生さんと関わると、その真つすぐな姿に刺激を受けました。牧場見学では多くの質問から酪農への関心の高さを感じ、雑談では若者ならではの視点に驚きました。日々牛乳の品質を追求する酪農家にとって、そのアイデア一つが目新しく、他の酪農家も「新しいマーケティングの着想を得た」と喜んでいます。

学生さんには、まだまだ酪農のことを伝え切れていないので、今後も事業は継続したいです。彼らにとって、酪農だけでなく、「日本の食」を考えるきっかけになればと強く願っています。

教員

Project : AERU

南砺市長

SPECIAL TALK!

南砺市長 田中幹夫 × 金沢大学教員 篠田隆行

「南砺市学生サポーター」活動を支えてくださった田中南砺市長に、活動を通しての感想や学生に期待することについて篠田先生がお聞きしました。



コロナ禍で、学生の行動が地域の力になった

篠田 「南砺市学生サポーター」活動にあたり、田中市長には特別講演をしていただきました。
田中 角間キャンパスでの講演で、金沢大生が南砺市の応援市民（学生サポーター）になってくれることを知りました。学生の高い熱量を感じて、私自身も楽しい講演でした。
篠田 学生の印象はどうでしたか。
田中 金沢大学は南砺市に一番近い大学なんです。以前から金沢大生にフィールドを提供していた経緯もあり、思い入れがありました。この活動でも学生は熱心ですし、いろんな質問をしてくれました。「質の良い」学生が多いという印象です。

篠田 私も学生の熱意に驚くことがあります。授業後のレポートを読んで、「こんなに考えていたのか」と。
田中 今の学生はクールなんですね。考えていないのではなく、静かに楽しんでいる。

篠田 今年は42名がサポーターとして活動しました。田中

市長がこの活動に期待されることはありますか。

田中 コロナ禍で交流が少なくなっていました。金沢大生がさまざまな事業に参加してくれたことで、地域の人々には力になったと思います。「ようやく交流できる」といった声が届きましたし、今でも地域の人に会うと必ず話題になります。私も、42名の学生サポーターとはすでに何度か会っているような親近感があります。

初年度の反省を活かし、学生による運営も見据える

篠田 初年度ということもあり、大学としてどこまで関与するかは手探りの状態です。

田中 他大学のゼミが2012年ごろから利賀村で活動しています。卒業生と連携して農産加工品を広めるなど、学生同士がバトンをつないで活動を続けている良い例です。最初は大変ですが、継続すると活動が広がってより楽しくなりますね。

篠田 参加した学生が活動を広げてくれたことがありますし

金沢大学先端科学・社会共創推進機構
篠田 隆行 准教授

1972年神奈川県横浜市生まれ。横浜国立大学経営学部卒業、東京大学大学院教育学研究科修了。りそな銀行、國學院大學、富山国際学園富山短期大学を経て、2021年から現職。

た。活動の後、宿泊したいと申し出た学生は、そのまま1週間滞在しました。茶話会を開催したり、子どもたちと交流してくれたと地域の方からお聞きしてほっとしましたが、大学の活動で訪問していたため、申し出があった時は判断を迷いました。

田中 地域の中高生にとって、大学生から受ける影響は大きい。大学生がどんなことを考えているかを知るのは、子どもたちの良い経験になったと思います。

篠田 中高生の感性に触れる経験は、大学生にも刺激になりました。中高生が気づいていない地域の魅力を、自分たちが伝えたいと熱心に話しています。

田中 交流の良いところですね。地域の中にいるとその良さに気づきにくいのですが、外からの視点で「こんなふうに見えている」と伝えてもらうと違いに気づけます。

篠田 学生から「もっと自分たちでやりたい」「自分だったらこう準備する」といった意見も出ました。大学で準備し過ぎたことは初年度の反省点です。

田中 学生主催だと、ひやひやして見ていられないようなことも起こりますが、そんなことも面白くて経験になるのですね。

篠田 どこかの時点で、学生に引き渡すことも考えないといけませんね。SNSなどの情報発信も活動の狙いでしたが、発信する学生は二極化しているようで盛り上がりませんでした。

田中 地域の良さを知る学生が活動後に立ち寄りて発信してくれたら、それだけで嬉しいですね。

「土徳（どとく）」の里が人を育てる

篠田 自分に何ができるか、どうやって役に立つかを考える学生が多くて驚きます。大学に入学して、就職先を見つ

けて、それだけで安心していいのです。だから活動の機会を示すと、学生は柔軟に行動してくれます。

田中 アメリカでは学生がいろんなことに挑戦しています。学生には国内企業だけではなく世界の企業も視野に、さらに起業も視野に入れて行動してほしいですね。その行動を引き出すために、寛容性が高く、海外のように失敗しても再度挑戦できるような社会にしないといけません。

篠田 学生だけではなく、社会も、教育も変わることが必要ですね。南砺市のまちづくりという点で、田中市長がビジョンに掲げられた「一流の田舎」は地域の特徴を活かすものですね。

田中 国内の市町村数は1800ほど。すべての市町村が「一流の田舎」であってほしいと思っています。「田舎」であることはコンプレックスではなく「個性」ですから、南砺市は誇れる田舎を目指しています。

篠田 そのために地域の人たちも一流になる必要がありますね。若者にはどんなことを期待されますか。

田中 若者には、いろんな場所を訪ねて、「一流の田舎」を体験してほしい。南砺市は、「一流の田舎」を目指しています。

そのまちづくりに参加して、自然と共生する南砺市ならではの良さを発見し、学んでもらいたいと思います。

篠田 学生の反応からも、得難い経験をしていることが分かります。「出会った人がみんな良い人だった」と地域の優しさを感じているようです。

田中 南砺の土地柄を表す言葉に「土徳（どとく）」があります。版画家の棟方志功は、この土地に暮らす人々の宗教心や自然への感謝の気持ちに影響を受けて、作風が丸くやさしく変わったといわれています。「土徳（どとく）」の里で、目に見えない力が学生を育てることもあるのではないのでしょうか。

篠田 五箇山（富山県）と白峰（石川県）に共通する里山文化を比較する活動を計画中です。それぞれの特徴の違いを探り、地域をつなげるといった学生だからできる活動です。継続することで地域にも還元できればと思います。

田中 2つの地域には発酵食などの「醸す」といった共通する文化があり、面白いと思います。地域の発展につなげたいですね。

学生VOICE

プログラム アンケート結果

雑談して、もっと社会と関わり
が持たい、外に出ようという
気持ちが強くなった。
総合教育部(文系)1年

社長は多くの経験を積み、挑戦
し続ける存在だと強く感じた。
自分も起業したい以上、そうな
らねばと思った。 先導学類 1年

テレビをあまり見る習慣がな
かったが、緊急時に正確な情報
を広く伝える点で、公共の電波
で発信する大切さを感じた。
人文学類 2年

「かぶらを作るのは、ただ美味
しいものが食べたいから」とい
う言葉が心に残っている。純粋
な想いほど、大きな原動力にな
ると感じた。 地域創造学類 4年

企業の方と課題特定のための
ワークショップをして、業務の疑
似体験ができてためになった。
経済学類 3年

焼き畑農業の火の熱さ、持ち上
げたときの農具の重さは、実際
に体験しないと味わえない。
総合教育部(文系)1年

未体験のジャンルだったからこそ、
新しい発見が多かった。職人さん
の商品開発への強いこだわりが
印象的だった。 先導学類 1年

企業の地域活動と事業展開の
リアルを知ることができて楽し
かった。 法学類 2年

私たちの活動に「地域を盛り上
げてくれて嬉しい。助かるよ」と
直接感謝の言葉を頂けてとて
も嬉しかった。 人文学類 3年

商談を生で見学して、今まで
考えたこともなかったお店の
裏側を知り、商品を見る目が
変わった。 国際学類 2年

生産現場を直接見たり聞いた
りして、物事を真剣に考える
きっかけになった。
生命理工学類 2年

地域に密着した営みをする
一方で、ビジネスとして新事
業にも挑戦しなければいけ
ないジレンマがある。リアル
な経営者の声が聞けた。
国際学類 1年

データ集計結果を踏まえて

先端科学・社会共創推進機構 准教授 篠田 隆行

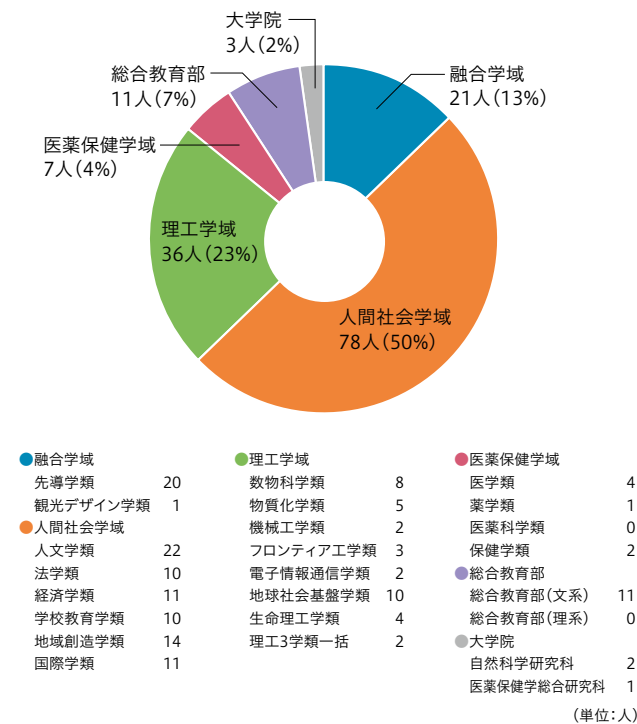
2022年度は、新型コロナウイルス感染症に対する規制の緩和、ならびに事業実施方法の工夫によりプログラム実施回数は前年度よりも大幅に増加しました。その結果、プログラム参加者数も増加し、本事業への学生の関心度が高いことが数値となって表れました。また、参加学生の専門分野、出身地も多種多様に地域での活動に対する関心を持つ学生の幅が広いことが分かります。加えて、マスメディアをはじめとする報道も多数あり、地域での学生の活動に社会的な関心が高いことも数値として表れました。

一方、事業実施後に行った個別のアンケートやインタビューからは、参加学生は事業に参加するうえで課題を設定し、体験等を通じてそれぞれが自分なりの気づきを得たことが伺えます。それぞれのコメントに共通することは、地域という現場で、地域の方々と直接話をする中で「リアル」を知り、目に見えるものだけではないその背景の「本質」を感じ取れたことが見受けられます。今後もこれらの取り組みを学生や地域の方々と共により良いものへ創り上げていく所存です。

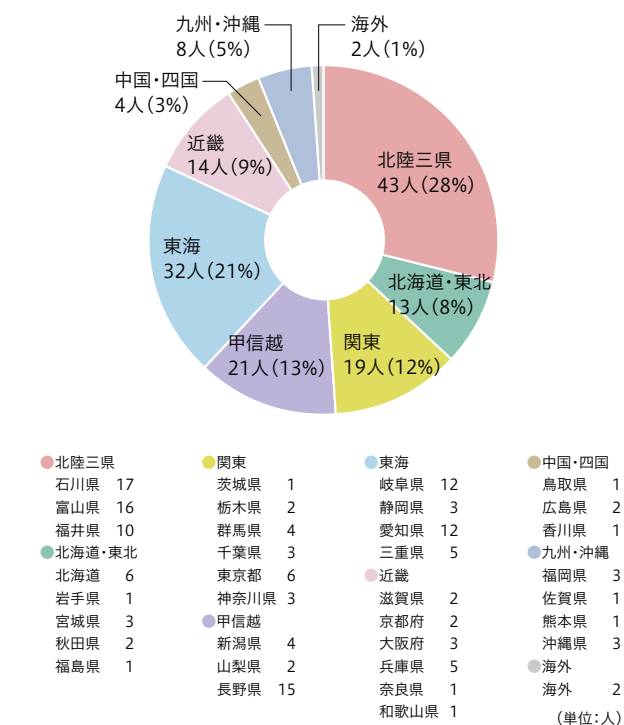
プログラム参加者数(個人)

合計 **156** 人(前年度110人)

● 学域・学類別 参加者数(個人)



● 地域・都道府県別 参加者数(個人)



プログラム参加者数

延べ **430** 人(前年度168人)

申込者数 **509** 人(うち体調不良欠席者79人)

● 事業別参加者数(延べ人数)

雑談のチカラ	122人	bibibi連携事業	21人
南砺市学生サポーター	157人	交牧連携事業	21人
みんなで農作業の日	49人	能登の生業体験	27人
NHK金沢連携事業	19人	その他	14人

※金沢大生のみ計上。各数値には本報告書未記載のプログラムの参加者数も含む

プログラム実施回数

合計 **49** 回(前年度10回)

● 事業別プログラム実施回数

雑談のチカラ	11回	bibibi連携事業	5回
南砺市学生サポーター	14回	交牧連携事業	4回
みんなで農作業の日	3回	能登の生業体験	3回
NHK金沢連携事業	6回	その他	3回

プレスリリース配信件数

合計 **21** 件(うち共同リリース13件)

報道件数

合計 **192** 件

● 媒体別 報道件数

新聞社	111件(うちWeb配信45件)	その他・紙媒体	11件
テレビ局	43件(うちWeb配信19件)	その他・Web	27件

※2022年4月1日から翌年2月28日までの合計値

AERU Webページ閲覧数

合計 **1,399** 回(月平均117回)

※2022年3月1日から翌年2月28日までの合計値

事業連携先、編集協力

合同会社北陸つどいフォーラム [p.06、08、11]
株式会社TOP [p.07]
中村留精密工業株式会社 [p.07]
NHK金沢放送局 [p.08、18-20]
株式会社良品計画 営業本部北陸事業部 [p.08]
株式会社NTTデータ 第三金融事業本部決済ITサービス事業部 [p.09]
地域交流牧場全国連絡会(北陸ブロック) [p.09、22-24]
南砺市役所 [p.09、12-17、26-27]
bibibi [p.21]

編集協力

北村 真美様 [p.11]
石黒 和宏様 [p.11]
松古 誠様 [p.14]
橋爪 央樹様 [p.15]
青沼 光様 [p.24]
田中 幹夫様 [p.26-27]

編集責任者

篠田 隆行

編集構成、写真

舘 正裕樹

Special Thanks

古川 こはる、藤井 亮介、九曜 慶子、
鈴木 晴日、中島 優一郎、柳下 七美、
川端 夏希、古波倉 正梧、
一木 梨浦子、東中 菜都
ほか、AERUに参加したすべての金沢大生の皆さん

金沢大学地域思考型教育 2022 年度実践報告書

「AERUのTOBIRA」

2023 年 3 月 10 日発行

発行 金沢大学先端科学・社会共創推進機構
人材育成グループ
〒920-1192 石川県金沢市角間町
印刷製本 能登印刷株式会社
デザイン フルデザイン
本書の無断複写・複製、転載を禁じます。

あとがき

大学は、さまざまな分野に知的関心のある「仲間」が集う「場」であり、その仲間と互いに議論し、切磋琢磨することでその後の人格形成に大きな影響をもたらしてくれるものです。一方、社会課題が山積みする現代においては、地域という現場を知ることが大切な機会であり、大学内に留まることなく地域社会に身を投じ、チャレンジをすることも必要です。

本事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により学生生活に制約が生じた中、実施方法を工夫・模索しながら、1 年を通じてさまざまな事業を専門分野や学年、そして出身地も異なる多くの学生と共に実施しました。それぞれの体験を通じて、学生が自分なりの発見や気づきを得て、より良い未来社会の構築において主役となることを願っています。

最後に、本事業の実施にあたり、学生に一人の「大人」として向き合い、一緒に取り組んでくださいました地域の皆様に改めて感謝申し上げます。

先端科学・社会共創推進機構 人材育成グループ長 篠田 隆行

本学の地域思考型教育を「Project : AERU」として発信する。そのきっかけは、2020年度に出会った学生さんの声でした。「里山保全活動でたくさんのお学類生とつながりました」「農業アイデアソンで研究意欲が高まり、大学院進学を決めました」。コロナ禍で大学生活が制限される中、プログラムを通じて出会い、学び、成長する学生の姿に、そしてその笑顔に心動かされました。コロナ禍の今だからこそ、多くの出会いから「学ぶ楽しさ」を皆で分かち合ってほしい。そんな想いで企画を進め、2021年度にAERUがスタートしました。あれから早2年。金沢大生にとって、AERUが「次のステージ」に踏み出す一つの機会になればと願うばかりです。

また、本事業がここまで大きな取り組みとなったのは、ご支援・ご協力いただいた企業・自治体等の皆様方、そして篠田先生のご尽力の賜物です。この場をお借りして、御礼申し上げます。来年度も、多くの学生さんが笑顔になりますように。引き続き、AERUをよろしく願いいたします。

研究・社会共創推進部 地域共創推進課 教育事業係 舘 正裕樹

本事業は、公益財団法人澁谷学術文化スポーツ振興財団様、南砺市様、株式会社TOP様、合同会社北陸つどいフォーラム様からのご支援、ならびに多くの地域の方々のご協力を賜り実施できました。

ここに改めて深謝の意を表します。

出会う、つながる、学びあう。

Project:AER♡



[お問い合わせ先]

金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 人材育成グループ

(E-Mail) event@adm.kanazawa-u.ac.jp